PPPoE マルチセッション用の設定手順

フレッツグループアクセス 端末型払い出しでの接続方法 3 ~ GRE トンネルを利用した接続例 2 ~

センチュリー・システムズ(株)

はじめに

この設定ガイドは、以下の機種に対応しています。

- XR-350/DES
- ・XR-360 シリーズ各製品
- XR-380/DES
- ・XR-410 シリーズ各製品
- XR-440/C
- XR-640/CD
- ・XR-1000 ファームウェア ver 2.0 以降
- XR-1000/TX4

この設定例は、インターネットへの接続とフレッツ・グループアクセスの利用を同時におこなう場合に必要な設定例です。 フレッツ・グループアクセスプロ端末型アドレス払い出しとフレッツ・グループアクセスライトでの利用にお使いいただける設定例となります。



運用の条件

(a) 双方の LAN は任意のプライベートアドレス環境で運用します。

(b)XR #1 、XR #2 ともに PPoE 主回線側でインターネットに、PPPoE マルチ #2 回線側でフレッツ・ グループアクセスに同時接続 します。グループアクセスは IP アドレス端末型払い出しでの接続 とします。

(c) XR #1、 XR #2 ともに、マルチ接続側で相互の LAN を GRE で接続します。

[a-1]インターフェース設定

∠YP #1の設定、

Ether 0ポート	 ● 固定アドレスで使用 IPアドレス 192.168.10.254 ネットマスク 255.255.255.0 MTU 1500 C DHOPサーバから取得 ホスト名 MACアドレス IPマスカレード (このボートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います) □ ステートフルパケットインスペクション □ Proxy ARP ボートの通信モード ● 自動 ● full-100M ● half-100M ● full-10M ● half-10M 	Ether 0ポート	 ● 固定アドレスで使用 IPアドレス 192.168.20.254 ネットマスク 255.255.255.0 MTU 1500 C DHOPサーバから取得 ホスト名 MACアドレス IPマスカレード (このボートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います) ステートフルパケットインスペクション Proxy ARP ボートの通信モード ● 自動 ○ full=100M ○ full=10M ○ full=10M ○ full=10M
Ether 1 ポート	 ● 固定アドレスで使用 IPアドレス 192.168.100.254 ネットマスク 255.255.255.0 MTU 1500 C DHOPサーバから取得 ホスト名 MADアドレス IPマスカレード (このボートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います) マ ステートフルパケットインスペタション Proxy ARP ボートの通信モード ● 自動 ● full-100M ● half-100M ● full-10M ● half-10M 	Ether 1 术一ト	 ● 固定アドレスで使用 IPアドレス 192.168.110.254 ネットマスク 255.255.255.0 MTU 1500 C DHOPサーバから取得 ホスト名 MADアドレス IPマスカレード (このボートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います) マ ステートフルバケットインスペクション Proxy ARP ボートの通信モード ● 自動 「full=100M C half=100M C full=10M C half=10M
デフォルトゲートウェイ		デフォルトゲートウェイ	

それぞれのLANに合わせて、EtherOポートのIPアドレス、ネットマスクを設定してください。

また Ether1 ポートは、運用環境において他で使われていない IP アドレスを設定 してください。重複している IP アドレス設定があると正常に通信できない場合 があります。

[b-1]PPPoE 接続先設定1

<XR #1の設定>

<XR #2の設定>

プロパイダ名		プロパイダ名	
ם# – שו	Kインターネット接続用のユーザーID>	ц – фір	〈インターネット接続用のユーザーID〉
パスワード	〈インターネット接続用のパスワード〉	パスワード	〈インターネット接続用のパスワード〉
DNSサーバ	 ○ 割り当てられたDNSを使わない ○ ブロバイダから自動割り当て ○ 手動で設定 ブライマリ セカンダリ 	DNSサーバ	 ○ 割り当てられたDNSを使わない ○ ブロバイダから自動割り当て ○ 手動で設定 ブライマリ セカンダリ
LCPキーブアライブ	チェック間隔 30 秒 3回確認出来なくなると回線を切断します 0秒を入力するとこの機能は無効になります	LOPキーブアライブ	チェック間隔 30 秒 3回確認出来なくなると回線を切断します 0秒を入力するとこの機能は無効になります
Pingによる接続確認	 使用しない 使用する 使用するホスト 発行間隔は30秒固定、空棚の時はPtP-Gatewayに発行します 	Pinsによる接続確認	 使用しない 使用するホスト 発行間隔は30秒固定、空棚の時はPtP-Gatewayに発行します
Un	Numbered-PPP回袋使用時に設定できます	0	nNumbered-PPP回線使用時に設定できます
IPアドレス	く適宜設定します> 回線接続時に割り付けるグローバルIPアドレスです	IPアドレス	く適宜設定します> 回線接続時に割り付けるグローバルIPアドレスです

接続先設定1にインターネット接続のための設定をします。

ユーザー ID とパスワード、DNS 設定など。

また IP アドレスが固定割り当ての場合は、「IP アドレス」欄に値を設定してください。

[b-2]PPPoE 接続先設定2

<XR #1の設定>

<xr< th=""><th>#2</th><th>Ø</th><th>設定</th><th>></th></xr<>	#2	Ø	設定	>
--	----	---	----	---

プロパイダ名		プロパイダ名	
ם ש וד – ב	 ドグループアクセス接続用のユーザーID>	ב- ל וס	<グループアクセス接続用のユーザーID>
パスワード	〈グループアクセス接続用のパスワード〉	パスワード	〈グループアクセス接続用のパスワード〉
DNSサーバ	 ○ 割り当てられたDNSを使わない ○ ブロバイダから自動割り当て ○ 手動で設定 ブライマリ セカンダリ 	DNS サーバ	 ○割り当てられたDNSを使わない ● ブロバイダから自動割り当て ○ 手動で設定 ブライマリ セカンダリ
LOPキーブアライブ	チェック間隔 30 秒 3回確認出来なくなると回線を切断します 0秒を入力するとこの機能は無効になります	LOPキープアライ)	チェック間隔 30 秒 ブ 3回確認出来なくなると回線を切断します 0秒を入力するとこの機能は無効になります
Pingによる接続確認	● 使用しない ○ 使用する 使用するホスト 発行間隔は30秒固定、空棚の時はPtP-Gatewayに発行します	Pinsによる接続確	 使用しない 使用するホスト 使用するホスト 発行間隔は30秒固定、空間の時はPtP-GstewsylL発行します
Un	Numbered-PPP回袋使用時に設定できます		UnNumbered-PPP回袋使用時に設定できます
IPアドレス	192.168.1.1 回線接続時に割り付けるグロー バルIPアドレスです	IPアドレス	192.168.2.1 回線接続時に割り付けるグロー バルIPアドレスです

接続先設定2にフレッツグループアクセス接続のための設定をします。ユーザー IDとパスワードを設定します。

さらに「IPアドレス」欄に、フレッツグループアクセス接続で割り当てられる IPアドレスを設定してください。

[b-3]PPPoE 接続設定

<XR #1の設定>

回袋状差	回稿は接続されていません			
接続先の選択	●接號先1 ○接號先2 ○接號先3 ○接號先4 ○接號先5			
接続 ポート	C RS232C C Ether0 C Ether1			
接鏡形態	○手動接続			
IPマスカレード	C無効 €有効			
ステートフル パケット インスペクション	C無効 €有効			
デフォルトルートの設定	C無劾 €有効			

<XR #2の設定>

回發状態	回職は接続されていません				
接続先の選択	●接锁先1 ◎接锁先2 ◎接锁先3 ◎接锁先4 ◎接锁先5				
接続ポート	CRS232C C Ether0 © Ether1				
接読形態	C手動接続				
IPマスカレード	C無効 C 有効				
ステートフルパケット インスペクション	C.無効 C.有効				
デフォルトルートの設定	С無効 €有効				

主回線が自動的にデフォルトゲートウェイに設定されますので、ISP 接続を主回 線、グループアクセス接続をマルチ接続に設定します。 接続先は「接続先1」を選択し、IPマスカレードは[有効]に設定してください。

(画面は XR-410/TX2 の表示例です)

[b-4]PPPoE 接続設定 マルチ接続回線

	<xr #1="" の設定例=""></xr>
マルチ接 続 #2	「FOE ビラショノ戦略を利用する陸は以下を設定して下さい ○無効 ● 有効
接続先の選択	○接號先1 ●接號先2 ○接號先3 ○接號先4 ○接號先5
接続ポート	CRS232C CEther0 © Ether1
IPマスカレード	€無効 ○有効
ステートフル パケット イン スペクション	●無効 〇 有効

<XR #2の設定例>

マルチPPP/PF	マルチPPP/PPPoEセッション機能を利用する煙は以下を設定して下さい						
マルチ接続 #2	○無効 ●有効						
接続先の選択	○接統先1 ●接統先2 ○接統先3 ○接統先4 ○接統先5						
接続ポート	CRS232C C Ether0 C Ether1						
1Pマスカレード	●無効 ● 有効						
ステートフル パケット イン スペクション	◎無効 〇有効						

マルチ接続 #2を「有効」に設定して、接続先は「接続先2」を選択して下さい。 端末型接続ですが GRE を使用しますので、IPマスカレードは[無効]にします。 また閉域網を介しての接続となりますので、ステートフルインスペクションは 無効としています。

(画面は XR-410/TX2 の表示例です)

[c]GRE 設定

<XR #1の設定>

インタフェー スアド レス	172.16.1.1/30 (Mg:192.168.0.1/30)
リモートの先アドレス	(),192.168.2.1 (),192.168.1.1)
ローカルG送信元 アドレス	192.168.1.1 (例:192.168.2.1)
PEER7F レス	(M]:192.168.0.2/30
TTL	255 (1-255)
MTU	1476 (最大值 1476)
GREoverIPSec	○ 使用する ipsec0 ▼ ● Routing Tableに依存
IDキーの設定	(0-4294967295)
End-to-End Checksumming	○ 有効 ● 無効
MSS設定	● 有効 ● 無効 MSS値 <mark>0</mark> Byte (有効時にMSS値が0の場合は、 MSS値を自動設定(Clamp MSS to MTU)します。)

インターフェースアドレス、PEERアドレスはGREトンネル生 成用の仮想 IP アドレスを設定します。

この設定例では172.16.1.1/30をインタフェースアドレス、 172.16.1.2/30を PEER アドレス(XR #2のインタフェースア ドレス)としています。

リモートアドレスにはXR #2に、ローカルアドレスにはXR #1に実際に割り当てられている IP アドレスを設定します。 (画面はXR-380/DESのものです)

<XR #2の設定>

インタフェー スアドレス	(m):192.16.1.2/30 (m):192.168.0.1/30)
リモート「宛先」アドレス	192.168.1.1 (例:192.168.1.1)
ローカルG送信元)アドレス	192.168.2.1 (M):192.168.2.1)
PEERアドレス	172.16.1.1/30 (例:192.168.0.2/30)
TTL	255 (1-255)
MTU	1476 (最大值 1476)
GREoverIPSec	○ 使用する ipsec0 ▼ ● Routing Table に依存
IDキーの設定	(0-4294967295)
End-to-End Checksumming	◯ 有効 . ● 無効
MSS設定	● 有効 ● 無効 MSS値 <mark>0</mark> Byte (有効時I⊏MSS値が0の場合は、 MSS値を自動設定(Clamp MSS to MTU)します。)

172.16.1.2/30 をインタフェースアドレス、172.16.1.1/30 を PEER アドレス(XR #1 のインタフェースアドレス)に設定 します。

リモートアドレスにはXR #1 に、ローカルアドレスにはXR #2 に実際に割り当てられている IP アドレスを設定します。

(画面はXR-380/DESのものです)

[d]スタティックルート設定

<XR #1の設定>

ホスト/ネットワーク	アドレス	ネットマスク	インターフェース	gre No. <1−64>	ゲートウェイ	ディスタンス <1-255>
ホスト 💌	192.168.2.1	255.255.255.255	PPP/PPPoE-マルチ #2 💌			
ネットワーク 💌	192.168.20.0	255.255.255.0	GRE[右欄gre No.必須] 💌	1		

デフォルトルートは主回線接続側に向いているため、その ままではフレッツグループアクセスの対向拠点に対してア クセスできません。対向拠点へのスタティックルート設定 を追加してください。

1つ目に、GRE パケットをXR #2 に転送するためのルーティ ングの設定をします。「ホスト」を選択し、XR #2のIPア ドレスを設定します。インタフェースは「PPP/PPPoE ーマ ルチ#2」を選択します。

2つ目に、LAN1とLAN2間の通信をGRE 経由にするための ルーティング設定をします。「ネットワーク」を選択し、 LAN2のネットワークアドレスとサブネット値を設定しま す。またインターフェースは「gre」を選択し、greNo.を 「1」に設定します。

<XR #2の設定>

ホスト/ネットワーク	アドレス	ネットマスク	インターフェー ス	gre No. <1-64>	ゲートウェイ	ディスタンス <1-255>
ホスト 💌	192.168.1.1	255.255.255.255	PPP/PPP₀E-マルチ #2 💌			
ネットワーク 💌	192.168.10.0	255.255.255.0	GRE[右欄gre No.必須] 💌	1		

<XR #1の設定例>と同様にして、XR #1と接続するための スタティックルート設定をしてください。

以上ですべての設定は完了です。設定後に PPPoE 接続を開始してください。

[補足]入力フィルタ設定について



マルチ接続側でステートフルインスペクションを有効にしているときは、GRE 用の入力フィルタを設定してください。

インタフェースは「PPP/PPPoE - マルチ#2」を選択します。

フレッツグループアクセス 端末型払い出しでの接続方法 3

~ GRE トンネルを利用した接続例 2 ~

2004年1月版

発行 センチュリー・システムズ株式会社

2001-2004 CENTURYSYSTEMS, INC. All rights reserved.